

再興第七十七回

院



「アンコールワット遺跡 夕陽」(部分)平山郁夫

展

平成5年1月29日(金)から2月14日(日)まで

午前9時～午後5時(金曜日は午後7時まで) 入室は閉館30分前まで 休館日は月曜日

高松市美術館

高松市紺屋町10-4 Tel.0878-23-1711

入場料◆一般=700円 高大生=400円 小中生=200円

主催◆高松市美術館・財団法人日本美術院・四国新聞社

再興第77回 院展

院

明治31年(1898)7月、岡倉天心を中心に研究団体として発足した日本美術院は、茨城五浦時代を経て、大正3年(1914)横山大観、下村観山らにより再興日本美術院として再出発します。一時、洋画部、彫刻部が設けられますが昭和36年(1961)からは日本画部のみの団体となり、現在のかたちとなります。いま日本美術院の歴史を考えた時、この団体が岡倉天心の掲げた理想のもと、在野であるとの気概に支えられ、時代とともに自己変身を繰り返してきたことに気がきます。この団体の草創期から現在までの作品を概観すれば、これは明らかなのですが、この変化こそが日本画界に刺激を与え続け、この団体に伝統を築かせた要因と言えるのではないのでしょうか。さて、高松市美術館ではこれまでに第73回、第75回の再興院展を開催し、多くの方よりご好評をいただきました。この再興第77回院展は、高松での2年ぶりの開催となります。今回、展示会場には、日本美術院同人の作品31点と入選作品51点の計82点の作品が並びます。これらの作品を通して再興日本美術院の現状を見ることは、現在の日本画界の動向を識ることもつながるはずです。



「大和・雪のしじま」(後藤純男)



「浄土変相」(長谷川清澄)



「宵」(寺本郷史)



「豆千鶴・豆涼」(鎌倉秀雄)



「湿原」(下田義寛)

展

次回展覧会のご案内

西洋絵画のなかの **シェイクスピア展**

2月19日(金)～3月28日(日)